



特集 木を植える 明日を育む ~南島原植樹~

植樹したすべての人の「記念樹」

今回の植樹に関わったすべての人が、上原の森を訪れるたびに、水と緑、さらには地球と自分について考えることでしょうか。そして何より森の成長に癒され、励まされていくに違いありません。

上原の森が、植樹した皆さんにとって、「記念碑」のような存在となることを、心から祈ります。



上原に森が生まれる

上原地区は、戦後入植者により、山林が開墾され農地として利用されてきました。

昭和53年に当時の電電公社が購入し、無線送信所として整備。同送信所は、東南アジア、インド洋、中近東そして欧州、アフリカを航行する船舶と通信が行われてきました。その規模は西日本最大規模でした。その後、時代の流れと共に、人工衛星に通信手段が変わり、平成11年に無線送信所が廃止。環境保護のため、合併前の南有馬町が購入



植えた木の種類

今回植樹した苗は、エノキ・ヤマモミジ・イチョウ・アラカシ・ケヤキ・シイノキ・タブノキ・ヤマモモ・クヌギ・クスノキ・コナラ・ヤマザクラ。

ところで、これらの共通点、わかりますか。

1つ目は、もともと、南島原市に「生えていた木」であること。どんな品種でも、それがもともと生えていたものでなければ、厳密に言えば環境破壊。例えば「シイノキ」は、地元で拾った種を育てたものを植林。「環境に優しい植樹」がテーマなのです。

2つ目は、すべてが広葉樹であること。落ちた広い葉っぱは、まるでふかふかの「ふとん」。栄養豊かな水をたっぷりと含み、森の生物を生き生きと育てることができます。



↑すくすく育つアラカシの苗



するも、活用策がないまま現在に至っていました。



→倒される直前の上原無線塔(平成11年)

上原地区は 南部3町の屋根

南有馬町、口之津町、加津佐町は、雲仙山系の恩恵を受けることができません。このことから、水資源に乏しく、地下水のほか、数百のため池やダムを整備するなど、水の確保に奔走してきた歴史があります。

今回、3町の屋根ともいうべき上原地区に3年をかけ、最終的に20・5ヘクタールの広さを持つ森が誕生することは、水源確保の面からも大きな意味を持ちます。



植樹が 私たちに伝えるもの

この森から私たちが潤いを実感できるのは、数十年後。今の子どもたちが大人になってからです。そんな先の話である一方で、すくすく育った木は、その後の南島原市を100年、200年と潤わせ続けます。

今だけではなく、遠い未来を想い、木を植える。自分ではなく、他人を思いやって木を植える。植樹を終え、帰路につく参加者。そのすがすがしい表情は、殺伐とした現代社会とは一番縁遠いところにあるのだと、そう思いました。



口之津上空から望む上原

保健・レクリエーション



森は、私たちが癒してくれます。森の中を歩くと気分がよくなりますね。こうした癒しのメカニズムが近年注目され、科学的に解明しようとする試みも盛んになってきています。

生物多様性保全



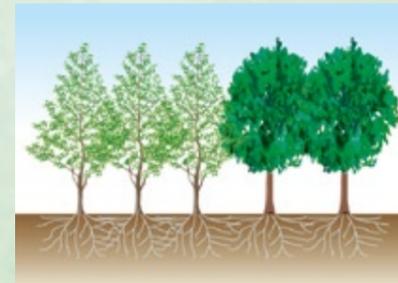
山はいろいろな生き物たちであふれています。樹木や植物だけでなく、動物たちや昆虫など、お互いが支えあい、暮らしています。生き物のいる「豊かさ」が、人間に多くの恵みを与えているのです。

物質生産



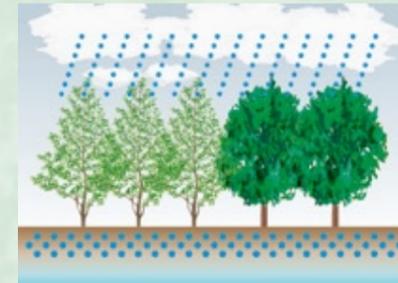
森は、木を育てる場所でもあります。木は、家や家具、紙などに形を変え、私たちの豊かな生活を彩ります。また、森は、材木以外にも木の実や果物、きのこのような食料を育てます。

土砂災害防止・土壌保全



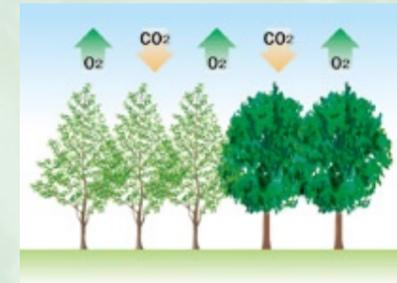
広く深く土の中に張った森の木々の根は、土砂崩れ、土砂流出を防ぎます。また、森の土は栄養が豊富です。森の植物の成長を助けるだけでなく、川や海に運ばれた森の栄養が、そこに住むさまざまな生き物の成長を助けます。

水源涵養(かんよう)



森の土は、木の根や落ち葉などですきまができます。例えるなら穴のあいたスポンジ。森に降った雨水を一時的に土の中に蓄え、洪水を防ぎます。また、少しずつ川に流れ出すことで、雨の少ない季節でも水が枯れることを防いでいます。

地球環境保全



森の木々は大气中の二酸化炭素を吸収して酸素に変えます。近年地球温暖化が問題になっていますが、その主な原因は二酸化炭素。地球温暖化を防ぐ観点からも、とても重要です。

森の役割

参考 C.W.ニコル・アファンの 森財団ホームページ